

令和3年度厚生労働省補助金事業
看護業務効率化先進事例収集・周知事業

看護業務の効率化 2021 先進事例アワード



社会福祉法人弘陵福祉会 特別養護老人ホーム 六甲の館

看護師のケアマネジメント力を介護負担軽減と二次障害の予防に活かす
～老人介護施設における看護師の役割とノーリフト推進～

社会福祉法人弘陵福祉会

特別養護老人ホーム 六甲の館



心からのおもてなし Best Hospitality

所在地	兵庫県神戸市
病床数	70床
職員数	50名
うち看護職員数	4名

1

介護施設利用者の高齢化＋介護の重度化に伴う

移乗介助業務の増加

(＝業務量増)

2

人力による移乗介助業務による

介護職員の腰への負担増

(＝健康リスク増)

3

人力による移乗介助業務による

移乗介助インシデント＋二次障害のリスク増

(四肢の内出血・表皮剥離・転倒)

(褥瘡改善の遅延・拘縮の悪化)

1

利用者のニーズを抽出&共有し合うことで

看護師と介護士の連携強化

- 職員が利用者のトータルアセスメントを行い、アプリケーションを用いて迅速に情報を共有する

2

業務改善による

職員の身体的負担軽減

- リフト増設によって業務時間・腰への負担を減らす

3

利用者の身体的・精神的苦痛の改善

- ノーリフトケアによって移乗介助インシデントや、拘縮、筋緊張状態を減少させる

取り組み内容

上記の目標達成のため、以下の取り組みを実施

ノーリフトケアを本格的に導入

ノーリフトケアとは？

医療や介護者の腰痛予防対策に加え、ケアアセスメントを実施し「抱えない・持ち上げない・引きずらない」ケアを提供する方法。

対象者の心身状況や環境をアセスメントし、福祉用具を有効活用することで快適な労働環境や体制を整える取り組み。

安心安全な介護の提供には、医療・介護従事者の間違った身体の使い方を無くし、負荷の少ないケア方法を取り入れることが重要。

2019年
7月

ノーリフト協会加盟（法人登録）

リフト追加設置開始

2019年 計4台追加
2020年 計8台追加

ノーリフト委員会発足

看護師・介護士・ケアマネージャー・施設長
協会コンサル（不定期）の全7-8名で構成

- ・看護師・介護士・ケアマネージャーなどの異なる職種で構成。月1回開催
- ・利用者の状態をアセスメントし、福祉用具を使用するための職員研修を実施
- ・毎年1回の職員の腰痛調査の実施
- ・毎年4月に新入職員に対し、リフトを使用するための研修を実施。全職員に対しても**使用技術チェック(17項目)**を用いたテストを実施し、スキルの均質化を目指す。チェック項目の100%達成をもって合格とする

2020年

ノーリフト協会主催
ノーリフト講座の受講を開始

- ・職員の習得度合いに合わせて受講（ベーシック→アドバンス→マネジメント）

専任看護師^(1名)の設置

委員会メンバーに加入

- ・**ノーリフト推進に関わる業務・効果の可視化**
移乗業務の件数・所要時間・利用者状況などを可視化し、職員にノーリフトのメリットを実感してもらうことで、ノーリフトの理解促進と普及を図る

2020年
5月

ノーリフトアプリの運用開始

- ・利用者のADLや使用福祉器具を入力し、**全職員が統一したケアを提供可能に**
ex)自立可否/ノーリフト使用有無/車椅子・クッションの型の種類/特浴情報など

2022年
2月

現在

- ・2022年2月までに介護職員全員/看護師2名/事務職員2名がベーシック講座受講終了予定

取り組み前のリフト使用状況と使用に対する障壁

リフトはすでに7台導入済(7部屋28床)であったが、**職員から希望のあった利用者（体格が大きく、人力での移乗介助負荷が大きい人）** に対しての**限定的な使用**に留まっていた。

Q. リフト使用や増設がなぜ活性化されないのか？

介護職員の声

- 人力でできるものをなぜリフトに任せるのか？（=仕事が奪われる）
- 結局リフトより人力の方が早いのでは？
- 小柄な人をわざわざリフトで移乗する必要があるのか？



メリットや効果に対する職員の十分な理解と実感がないことが要因

1 | リフトの導入



床走行リフト

- 断線するなど、壊れやすい
- リフト脚が車椅子にはまったり、利用者や介助者が自身の脚を引っ掛けてしまうリスクがある



天井走行リフト

- 天井にレールを設置するため、床走行のデメリットが解消される
- 天井の構造によっては導入が難しい場合がある
- 特浴（特殊浴槽）では、ボード式を採用していたが、2019年に天井走行リフトを導入

2 | ノーリフトアプリの導入



- ・ 利用者のADL*や使用福祉器具を入力

※ADL：日常生活動作

- ・ 自立可否
- ・ ノーリフト使用有無
- ・ 車椅子、クッションの型の種類
- ・ 特浴情報など



全職員が統一したケアを提供可能に

1

リフト増設による 業務量の削減

居室にリフトを増設したことにより、3人介助で移乗していた利用者を、1~2人介助で移乗できるように改善

取り組み前

リフト数
7部屋 28床

介助人数
3人

取り組み後

リフト数
13部屋 50床

介助人数
1~2人

2

ノーリフトケアによる 業務時間の短縮

車椅子⇄ベッドの移乗介助業務(2人作業)の変化



入浴時の移乗介助業務の変化



3

ノーリフトケアによる体圧分散等による

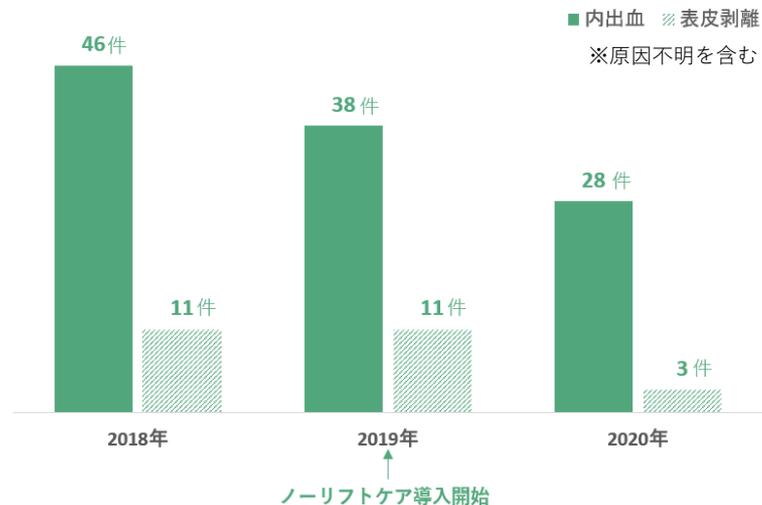
利用者の安心安全

○褥瘡処置人数や、移乗時の内出血・表皮剥離の発生が大幅に減少

褥瘡処置人数の月平均推移



移乗時発生疑いの内出血・表皮剥離の発生報告件数



参考資料 | ノーリフトケアによる利用者の変化



2019年12月



2021年6月

体幹の歪みが改善
下肢の拘縮が緩和



2019年7月



2020年10月

前傾姿勢&膝関節の拘縮緩和



2021年5月



2021年7月

上肢の筋緊張が緩和



2019年12月

車椅子調整にて車椅子乗車時の
座位保持が可能に



2021年6月



2019年7月

体幹の歪みが改善



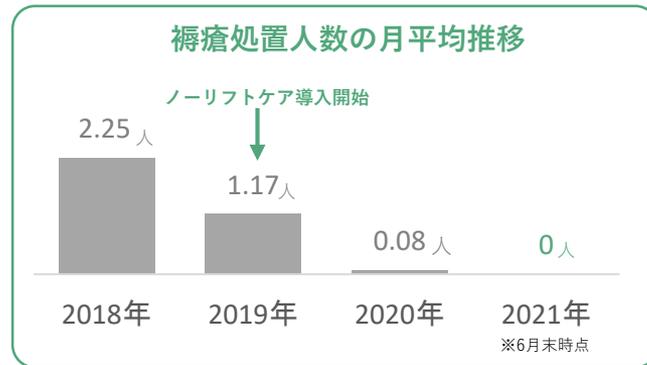
2020年10月

拘縮や筋緊張が緩和したことで、オムツ交換等の業務が容易に

4

臀部褥瘡処置の減少による 費用の削減

- 臀部褥瘡処置の減少により、処置にかかる
衛生材料費用が減少
(ガーゼ・テープ・フィルム等のドレッシング剤など)



5

ノーリフトケアによる 看護師の身体的・精神的負担の軽減

- 利用者のスキントラブルの減少で余裕を持った業務が可能になり、**ラウンドや感染対策に費やす時間が増加**
- 専門知識の習得により、**利用者に適切なケアが行えるという自信の醸成につながった**

6 職員のチーム連携の向上

- (1) 多職種間（看護師・介護士・ケアマネージャー）で利用者のニーズや問題点を共有し、委員会での話し合い、ノーリフト推進に向けた各研修を通じて、
ケアに対するコンセンサスがとれるようになった
- (2) **アプリ導入により、多職種間での情報共有が活発化**
利用者の使用福祉用具の管理やADLを把握することで、全ての職員がフロアの状況を確認できるようになった



介護士の対応能力が向上

褥瘡予防やその対策を自ら考え、報告の精度も上昇

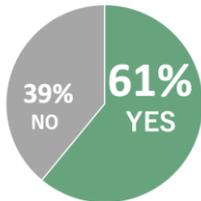
7

職員の満足度向上

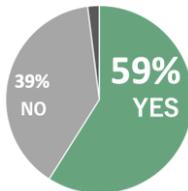
ノーリフトケアの導入後に職員アンケートを実施した結果、職員の満足度が高いことが確認できた

腰痛調査

①症状があった時、健康保険を使用した治療（整体・整骨院）を受けた



②腰などの痛みを感じ、仕事を続けていくことが不安になる



※2021年3月実施

ノーリフトケアの導入による職員の声



ノーリフトケアを導入し、腰の負担がとても少なくなりました。痛み止めの服用も激減し、病院への通院がなくなりました



以前は毎回息切れし、腕が痛くなったり疲れが出ていましたが、抱えない介護をすることで、かなり軽減されています。



ノーリフトが導入されることで、腰に負担なく仕事できています

ノーリフトケア導入に対する意識調査

非常勤パートを含む、全介護職員（25名）を対象にアンケートを実施

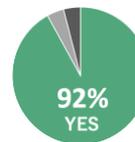
①ノーリフトケア導入後、身体的負担が軽減したか



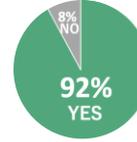
②特殊浴室にリフトを導入し、入浴介助の負担は軽減したか



③六甲の館で働き続ける理由の一つにノーリフトケアが入っているか



④密着対策（セクハラ・感染症等）にリフトは有効だと思うか



※2021年6月実施

付加的効果

- ノーリフトケアの抱きかかえない介助は、職員と利用者とのソーシャルディスタンスが保たれ、**新型コロナウイルス感染拡大リスクを低下させる効果があり、両者の精神的負担が軽減された。**
- ノーリフトケアは操作自体は平易なため、外国人労働者へのケア指導が容易になり、**人材確保という点でも効果がある**

1 | アプリ機能の強化

利用者情報（ポジショニング等）をさらに付記できるようなアプリを使用し、多職種間の連携をさらに深め、ケアの質の向上を目指す

2 | トイレに天井走行リフトを導入

身体的負荷の大きいトイレ介助の負担軽減を目指す。

トイレ特有の狭い空間に適した最新のスリングシートなども導入しながら、利用者の排泄の自立支援も促進する

導入ポイント

1 | 介護士・ケアマネージャーなど、 多職種とのコミュニケーション

看護師と介護士・ケアマネージャーが問題とメリットをしっかりと共有し合うことが重要

2 | メリットをいかに実感してもらうか

現場で身体に染み付いたケアの方法を変えることに抵抗感を覚える人も多いため、ノーリフトケアのメリットを実感してもらえるようなきっかけ作りや働きかけが重要

取り組みに苦労した点

- 機器の購入
 - ・リフトが比較的高価である
 - ・導入のために施設設備自体の変更などがあった